

## 小中学校プール施設のあり方の方針について

小中学校のプール授業における児童・生徒の安全安心な環境の実現、教員の負担軽減、改築時期を迎える施設整備の財政負担軽減などを目的として、今後の小中学校プール施設のあり方について、昨年度より検討を行ってきたところです。さらに今年度は、民間施設やエコパークを活用するモデル事業の実施や、各パターンにおける事業費の精査、バスの確保に向けた検討を進め、これらの検討結果や学校の意見等を踏まえ、小中学校プール施設のあり方の方針を取りまとめました。

### 1 市内小中学校の現状 …（令和5年12月定例会議委員会協議会資料「以下、委員会資料」より抜粋）

#### (1) 学習指導要領上の水泳の指導基準

- ・学習指導要領において発達段階に応じた習得が求められている。
- ・プールは学校の必須施設とされていない。（民間施設や共同利用も可能）

#### (2) 水泳授業等の現状

- ・猛暑日やゲリラ豪雨が増加し計画的な授業や水泳記録会の実施が困難。
- ・近年の猛暑による熱中症の恐れ。
- ・授業は夏期のみのためプールの稼働率が低い。（地区水泳の実施無し）

#### (3) 維持管理の現状

- ・教員は土日も含めた業務となるため、大きな負担となっている。

#### (4) 老朽化したプール施設の現状

- ・7割の施設が今後10年以内に改築または大規模な改修を行う必要がある。

#### (5) 近年に実施した修繕工事費

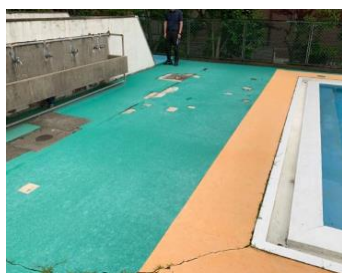
- ・防水工事関係とろ過装置関係が大半を占めますが、近年ではプールサイドの老朽化が進行しており、今後工事費用が増加すると予想される。

#### (6) 年間の維持管理費

- ・小中学校全体で年間2,000万円以上の施設修繕や光熱水費が掛かっている。

### 2 現状の課題…（委員会資料より抜粋）

- (1) 猛暑日やゲリラ豪雨に影響されない計画的な授業時間の確保
- (2) 近年の猛暑により熱中症や紫外線対策の必要性
- (3) 水質管理や施設管理を担う教員負担の軽減
- (4) 今後の改築および大規模改修費用の縮減



プールサイド床材の劣化(吉身小)



施設全体が老朽(守山北中)



プールサイド床材の劣化(物部小)

### 3 基本的な考え方および環境整備基本方針 …（委員会資料より抜粋）

昨年度お示しした、基本的な考え方および環境整備方針のもと、今後の小中学校プール施設のあり方検討を進めています。

#### 基本的な考え方

小学校における体験や中学校における専門的な学びなど、発達段階に応じた水泳教育の堅持

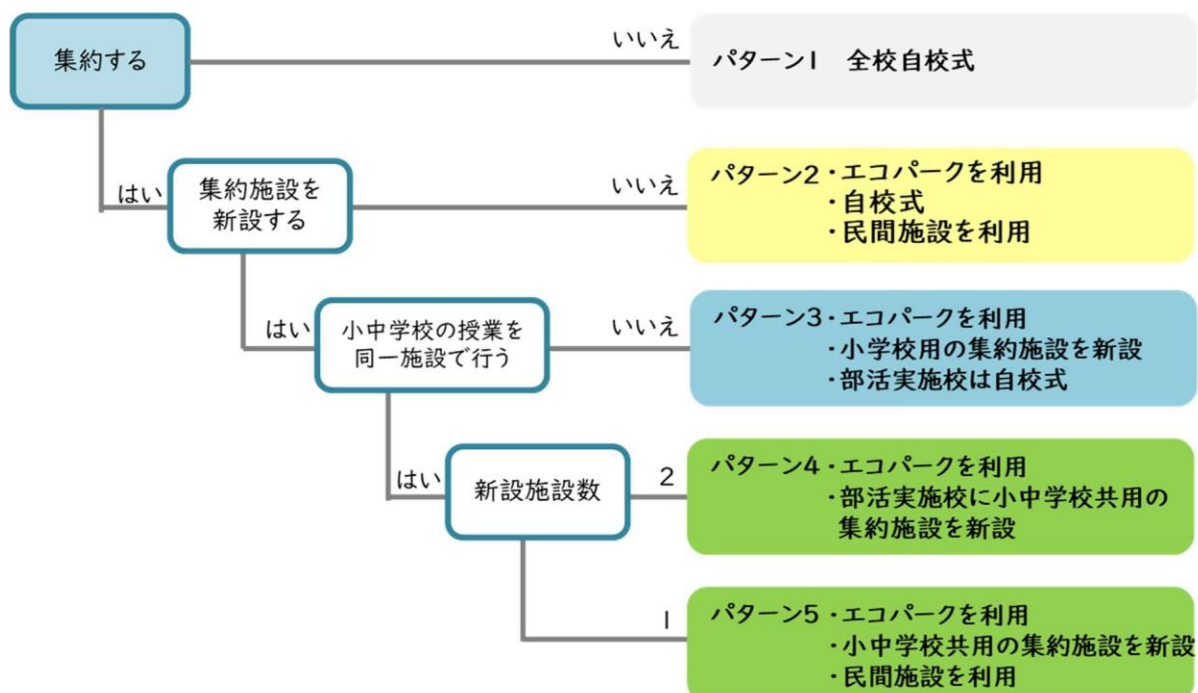
#### 環境整備基本方針

- (1) 近年の猛暑等に対応した安全安心な環境整備
- (2) 施設改築時期および財政計画を見据えた様々な手法検討（民間の活用、集約化）
- (3) 教員の負担軽減および働き方改革の実現

### 4 本市における具体の方向性の検討（パターン案）について …（委員会資料より抜粋）

昨年度、図表 1 のフローに従い、コスト面や運用性から実現の可能性が高い 5 パターンを作成しました。なお、集約を行う案については「エコパークを最大限利用すること」、「屋内集約施設を建設する場合は必要最小限の数とすること」を条件としています。

図表 4-1 検討フロー図



図表 4-2 小中学校プール施設のあり方 5つのパターン

パターン1  
全校自校式

- パターン2
- ・エコパークを利用
  - ・自校式
  - ・民間施設を利用

- パターン3
- ・エコパークを利用
  - ・小学校用の集約施設を新設
  - ・部活実施校は自校式

- パターン4
- ・エコパークを利用
  - ・部活実施校に小中学校共用の集約施設を新設

- パターン5
- ・エコパークを利用
  - ・小中学校共用の集約施設を新設
  - ・民間施設を利用

A 中洲小 明富中 守山北中 → エコパーク

C その他の小中学校 → 自校

D 吉身小 立入が丘小 → イトマン(民間施設)を利用

A 中洲小 明富中 守山北中 → エコパーク

B 守山小 物部小 小津小 玉津小 速野小 立入が丘小 → 集約施設共同利用(屋内プール)

C 守山南中・守山中(部活実施校) → 自校

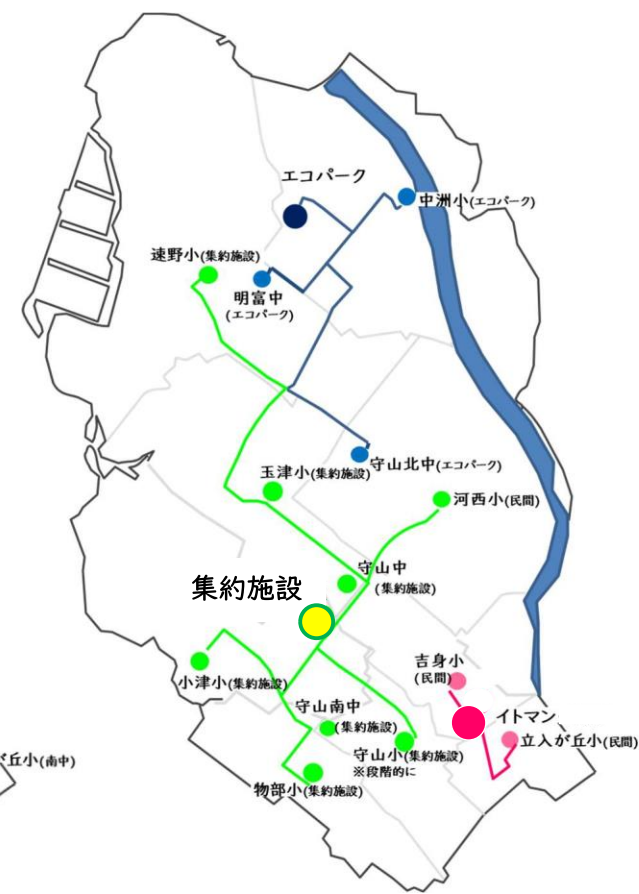
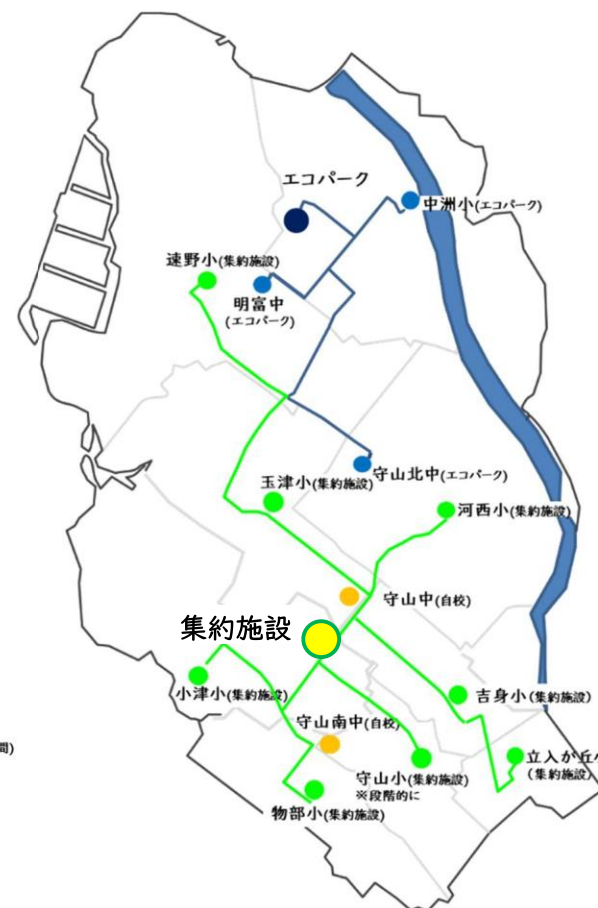
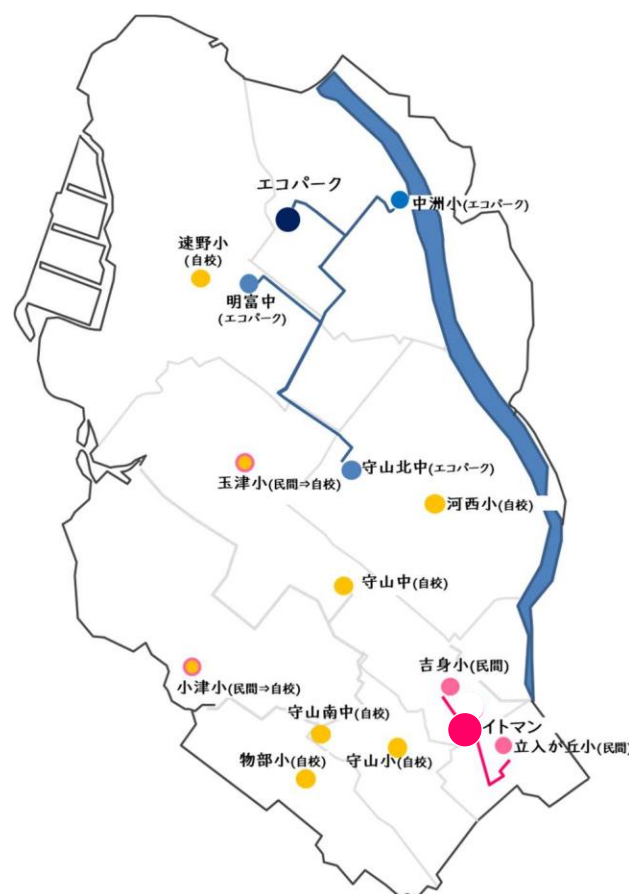
A 中洲小 明富中 守山北 → エコパーク

B 速野小 玉津小 河西小 吉身小 立入ヶ丘 → 守山中へ共同利用(屋内プール)  
守山小 小津小 物部小 → 守山南中へ共同利用(屋内プール)

A 中洲小 明富中 守山北中 → エコパーク

B 守山小 物部小 小津小 玉津小 速野小 河西小 守山南中 守山中 → 集約施設共同利用(屋内プール)

D 吉身小 立入が丘小 → イトマン(民間施設)を利用



※ ラックは R7 年度から  
野洲市が大部分を利用するため、利用不可となり、  
小津小と玉津小は、民間利用から自校に変更。

## 5 事業費の検討について

### (1) 算定条件

#### ア 期間

「守山市学校施設長寿命化計画」では、竣工後 80 年を目途に改築を実施する計画になっています。これに対し事業費を算出する上で、社会情勢が目まぐるしく変化する昨今では、80 年という期間では確実性の高い金額が算出できないため、長寿命化改修工事を実施するタイミングである 40 年間で算定します。

#### イ 児童・生徒数

住民基本台帳および宅地開発情報をもとに教育委員会が作成している生徒・児童数推計を基に、各学校の想定される生徒・児童数およびクラス数で算定します。

#### ウ 授業回数と期間

校外の屋内温水プールを利用する場合は、2 限連続授業を小学校 5 回、中学校 3 回(中学 3 年生は実技指導はなし)で算定します。授業期間は 4 月下旬から 11 月下旬(夏休み期間はなし)で算定します。

#### エ 移動方法 … (10 頁 7 集約施設を利用する場合のバス確保に向けた検討について参照)

民間施設(守山イトマン)利用校：徒歩移動

その他校外施設利用校：中型バス 2 台(市購入、運転手委託)で移動  
不足分は大型バス(委託)で移動

#### オ 各施設の算定項目

市の実績費用や委託業者によるヒアリングによる実勢価格で算定します。

図表 5-1

事業費算定			自校式	民間施設 エコパーク	集約施設 (学校敷地外)	集約施設 (学校敷地内)
大項目	中項目	頻度	パターン1、2、3	パターン2、3、4、5	パターン3、5	パターン4
指定管理料	-	毎年	-	-	○	-
維持管理費	光熱費	毎年	○	-	○	○
	電気	毎年	○	-	○	○
	衛生費	毎年	○	-	○	○
施設費	設計・工事費	新築時	○	-	○	○
	修繕費	毎年	○	-	○	○
	・長寿命化改修 ・予防修繕	20 年 40 年 60 年	○	-	○	○
	解体費	解体時	○	-	○	○
ろ過設備費	-	10 年毎	○	-	○	○
備品費	-	10 年毎	○	-	○	○
人件費	-	毎年	○ (教員人件費)	-	-	○ (用務員)
施設利用費	施設利用料	毎年	-	○	-	-
	指導補助委託	毎年	-	○	○	○
移動費	バス送迎委託	毎年	-	○	○	○
	バス車両購入	20 年	-	-	○	○



## カ 施設整備の条件について

各パターンにおいて、施設を整備する条件を整理します。なお、令和6年度時点で築年数が30年を越える学校は築50年で改築とし、築年数が30年未満の学校（守山小学校・中洲小学校・守山中学校）および改築後の屋外プールは、長寿命化計画に基づいて改修工事を実施し、築80年で改築を行うものとします。

図表5-2

	自校式プール改築 (パターン1,2,3)	集約施設（学校敷地外） (パターン3,5)	集約施設（学校敷地内） (パターン4)
延床面積	既存と同様 (平均: 1,158 m <sup>2</sup> )	2,000 m <sup>2</sup>	1,700 m <sup>2</sup> × 2
プール仕様	屋外、加温なし	屋内温水プール	屋内温水プール
プール槽	ステンレス槽	ステンレス槽	ステンレス槽
設計・監理費	工事費の9%	工事費の4.5%	工事費の4.5%
工事費	3.18億円(1校あたり)	19.3億	17.3億円 × 2
補助金・ 交付税措置等	・学校施設環境改善交付金	・学校施設環境改善交付金 ・公共施設等適正管理事業債	・学校施設環境改善交付金 ・公共施設等適正管理事業債
その他	・プールサイドに簡易な日 除け設置	・指定管理 ・支障のない範囲で一般開放	

### (2) パターン別算定結果

各パターン別に40年間の事業費を算定した結果は以下のとおりです。

#### パターン1

集約する

いいえ

- ・全校自校式
- ・従来型（屋外プール）

(千円)



総事業費  
81.7億円

ライフサイクルコスト		自校式
維持 管理 費	光熱費	16,665
	水道費	181,916
	衛生費	73,162
施設 費	設計・工事費	3,818,29
	修繕費	217,095
	・長寿命化改修 ・予防修繕	2,081,749
	解体費	350,302
設備費		1,368,312
人件費		51,140
補助金、交付税措置等		-351,703
実質負担金額合計		78.2億円

## パターン2

集約する

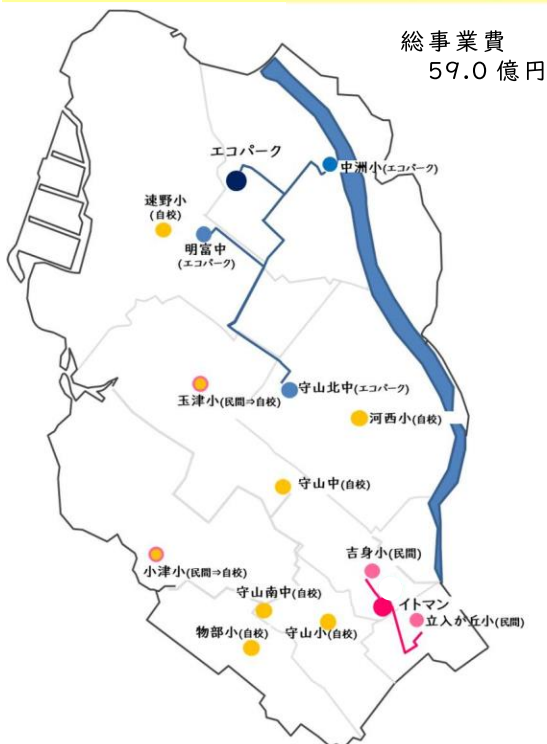
はい

集約施設を  
新設する

いいえ

- ・エコパークを利用
- ・自校式(屋外プール)
- ・民間施設を利用

3校  
8校  
2校



ライフサイクルコスト		自校式	民間施設 エコパーク	(千円)
維持 管理 費	光熱費	10,256	-	
	水道費	111,948	-	
	衛生費	45,023	-	
施設 費	設計・工事費	2,821,384	-	
	修繕費	142,883	-	
	・長寿命化改修 ・予防修繕	1,231,930	-	
	解体費	384,323	-	
設備費		842,038		
人件費		31,470	-	
施設利用料		-	288,912	
指導補助委託		-	64,225	
バス送迎委託		-	154,424	
補助金、交付税措置等		-159,865	-	
小 計		5,236,931	507,561	
実質負担金額合計		57.4 億円		

## パターン3

集約する

はい

集約施設を  
新設する

はい

小中学校の授業を  
同一施設で行う

- ・エコパークを利用
- ・集約施設を新設
- ・部活実施校は自校式

3校  
8校  
2校



ライフサイクルコスト		自校式	集約施設   施設 (学校数地外)	民間施設 エコパーク
指定管理料		-	1,600,000	-
維持 管理 費	光熱費	2,564	320,000	-
	水道費	27,987	72,000	-
	衛生費	11,256	-	-
施設 費	設計・工事費	347,118	1,979,174	-
	修繕費	21,592	-	-
	・長寿命化改修 ・予防修繕	303,539	1,184,773	-
	解体費	386,934	-	-
設備費		210,510	271,480	-
人件費		7,868	-	-
施設利用料		-	-	71,821
指導補助委託		-	219,992	15,764
バス送迎委託		-	990,000	154,424
土地取得費		-	152,540	
補助金、交付税措置等		-31,973	-828,713	
小 計		1,287,395	5,961,246	242,009
実質負担金額合計		74.9 億円		

## パターン4

集約する

はい

集約施設を  
新設する

はい

小中学校の授業を  
同一施設で行う

はい

新設施設数

- ・エコパークを利用 3校
- ・部活実施校に小中学校共用の  
集約施設を新設 10校

総事業費  
99.7億円



ライフサイクルコスト		集約施設 2施設 (学校敷地内)	エコパーク	(千円)
維持 管理 費	光熱費	640,000	-	
	水道費	144,000	-	
	衛生費	247,600	-	
施設 費	設計・工事費	3,462,754	-	
	修繕費	29,200	-	
	・長寿命化改修 ・予防修繕	2,129,207	-	
	解体費	408,197	-	
設備費		542,960	-	
人件費		130,660	-	
施設利用料		-	71,821	
指導補助委託		271,327	15,764	
バス送迎委託		1,726,856	154,424	
補助金、交付税措置等		-1,546,426		
小 計		8,182,143	242,009	
実質負担金額合計		84.2億円		

## パターン5

集約する

はい

集約施設を  
新設する

はい

小中学校の授業を  
同一施設で行う

はい

新設施設数

- ・エコパークを利用 3校
- ・小中学校共用の集約施設を新設 8校
- ・民間施設を利用 2校

総事業費  
77.5億円



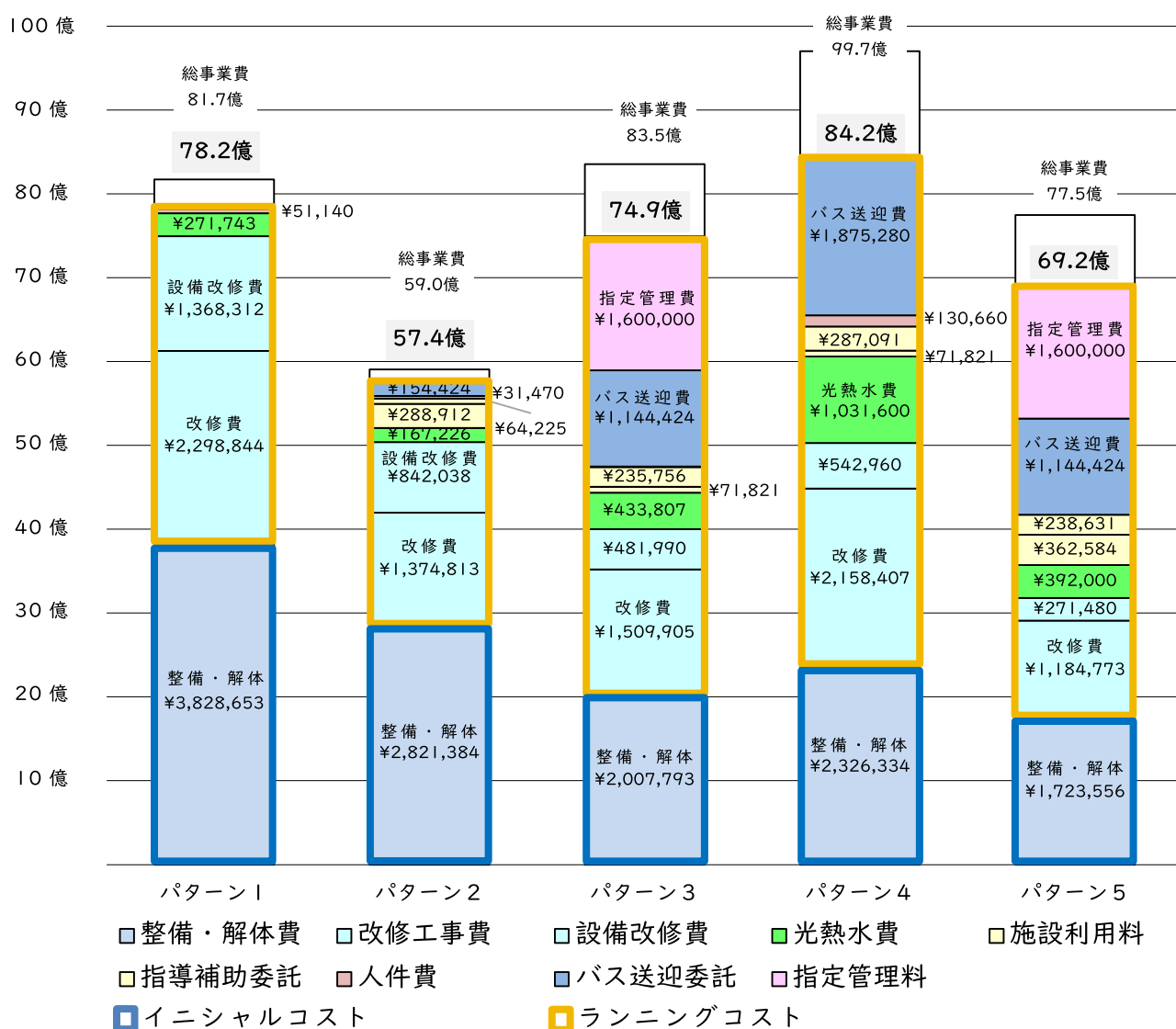
ライフサイクルコスト		集約施設 (学校敷地外)	民間施設 エコパーク	(千円)
指定管理料		1,600,000	-	
維持 管理 費	光熱費	320,000	-	
	水道費	72,000	-	
	衛生費	-	-	
施設 費	設計・工事費	1,979,174	-	
	修繕費	-	-	
	・長寿命化改修 ・予防修繕	1,184,773	-	
	解体費	419,650	-	
設備費		271,480	-	
施設利用料		-	362,584	
指導補助委託		222,867	15,764	
バス送迎委託		990,000	154,424	
土地取得費		152,540		
補助金、交付税措置等		-828,713		
小 計		6,383,771	532,772	
実質負担金額合計		69.2億円		

### (3) 事業費算定結果まとめ

40 年間の事業費算定結果をパターン別に比較した図は以下のとおりです（図表 5-3）。結果について、最もコストが削減できる実施パターンはパターン 2 であり、次いでパターン 5、パターン 3 となります。従来方式であるパターン 1 を基準とした場合、それぞれの削減費用はパターン 2 で 20.8 億円、パターン 5 で 9.0 億円、パターン 3 で 3.8 億円となります。

内容を確認すると施設の整備や改修費（長寿命化改修、予防改修含む）などのハードに係る費用が大きな割合を占めており、既存の小中学校プール施設や新築する施設を減らすことが事業費の削減効果を高めることが分かります。

図表 5-3



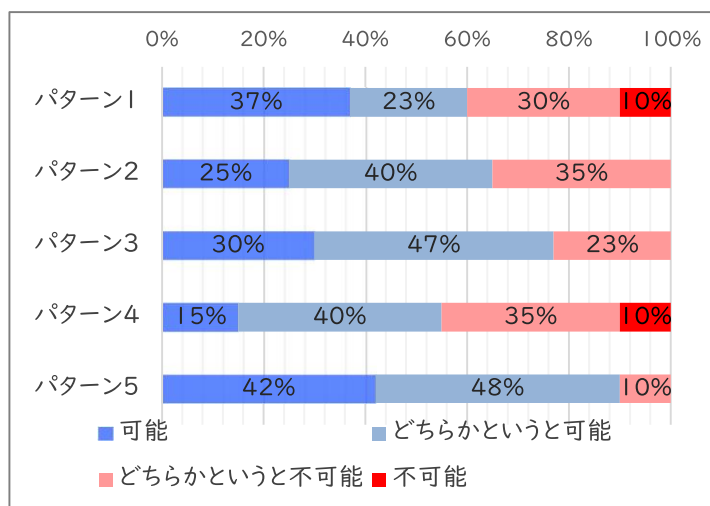


## 6 職員アンケート

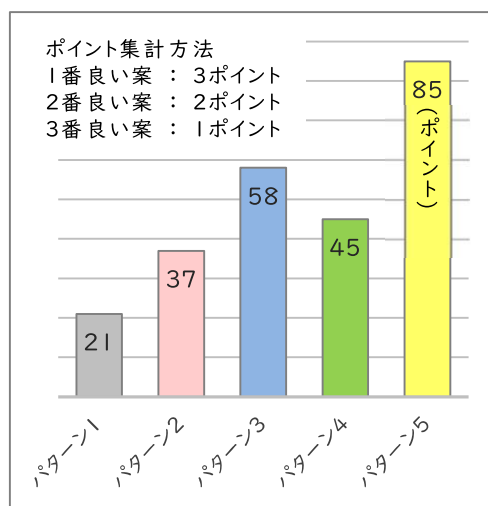
### (1) アンケートの実施

近年の授業環境の変化を踏まえ、各パターンにおいて今後授業運営が可能かについて、また、どのパターンが良いか等、小中学校の校長、教頭、体育主任にアンケートを実施した結果は、次のとおりです。

図表6-1(授業運営が可能か)



図表6-2(どのパターンが良いか)



アンケートの結果、どのパターンにおいても授業の運営が可能、もしくはどちらかという可という声が5割を超えているが、パターン5においては不可能と考える教員が突出して少なく、今後においても持続可能なパターンであることが窺えます。また、どのパターンが良いかとの問いに対してもパターン5は最もポイントが高いことが分かります。

また、従来どおりの方式であるパターン1が最もポイントが低く、パターン3やパターン4、パターン5の集約施設を建設するパターンのポイントが高いことが分かり、外部の屋内温水プールを利用することについて抵抗感が低いことが分かります。

### (2) 部活実施校の意見

守山南中学校、守山中学校の水泳部顧問にヒアリングを実施した結果、現在でも冬季は守山イトマンスイミングスクールやエコパークのプールを使用して部活動を実施しているため、校外の屋内温水プールを利用することに抵抗は少ないようでした。また、屋外プールの維持管理、水質管理は非常に負担が大きいようでした。

### (3) 集約施設で授業する場合の懸念点



アンケートによると、最大8校で利用する集約施設においては、夏季以外に授業を実施する学校が多くなるため、年間行事(運動会や職業体験等)と水泳授業の日程調整が必要という意見や、貸し切りバスなど移動手段の安定した確保が必要であるという意見がありました。

## 7 集約施設を利用する場合のバス確保に向けた検討について

### (1) 乗降場所の可能性調査

各小中学校におけるバスの乗降場所について、学校へのヒアリング実施および市が保有している中型バス実走調査を実施し、検討を行いました。結果については、図表7-1のとおりです。

図表7-1

		大型バス(45人) 全長11.9m×幅2.5m×高さ3.1m 2台で3クラス 移動可能 	中型バス(37人) 全長9m×幅2.34m×高さ3.1m 2台で2クラス 移動可能 
小 学 校	守山小	× 校外学習の際は、銀座通りから乗車	△ 銀座通り・楓参道側からの乗車
	吉身小	× 校外学習の際は、すこやか通りから乗車	○ 職員駐車場から乗車
	小津小	△ 校門からバックで入り停車	○ 校門から前進で発着可能
	玉津小	× 校外学習の際は、赤野井12号線から乗車	△ 校門前から乗車可能
	その他の小学校	○	○
中学校		○	○

市バス(中型)による乗降可能性調査の様子



銀座通り停車状況(守山小)



校門前停車状況(玉津小)



昇降口前停車状況(小津小)

プール授業期間は毎日複数回発着することから、安全および授業時間の確保を考慮すると学校近くでの乗降が望ましく、全小中学校の乗降場所を検討(図表7-1)すると、中型バスでの移動が望ましいと考えます。中でも守山小学校は敷地内での乗降が難しいため、楓参道側からの乗降も検討いたします。

## (2) 授業のバス運行について

集約施設を新設した場合のバス移動について、コスト面や運用性の実現が高い2案について検討を行いました。

### ア 案1：中型バス2台を利用した場合

中型バスは、2クラスずつの移動になりますが、バスを効率的にピストン輸送することで、2、3限にも移動が可能になります。また、更衣室の利用時間が分散されるため、施設の利用がスムーズになります。

なお、全小中学校を中型バスで運用した場合は、4月から11月まで毎日運行するため、バスを購入することで、バスと運転手の確保にも有効な案になります。

中型バス2台				
1限	2			
2限	クラス	2		
3限		クラス	2	
4限			クラス	
5限				2
6限				クラス
移動人数:280人				

### イ 案2：大型バス2台を利用した場合

2限ごとに3クラスの移動が可能ですが、施設の同時利用人数を考慮すると、中型バスの様に2、3限を利用した授業は、難しい状況です。

また、大型バスでの移動が難しい学校があるため、学校に合わせて大型バスと中型バスを委託業務の発注する事務の調整が煩雑になることが予想されます。

大型バス2台			
1限	3		
2限	クラス		
3限		3	
4限		クラス	
5限			3
6限			クラス
移動人数:315人			

凡例

大プール使用

小プール使用

## (3) まとめ

乗降場所の可能性調査やバス運行の検討から、中型バスの利用が有効であることが分かりました。また、前項の40年間の事業費算定の結果から、全てのバス運行を委託する場合と比較して、中型バスを2台購入し運転業務を委託する場合40年で3億円程度削減できることが分かりました。しかしながら、1学年3クラスの小学校は、3クラス同時に授業をしたいという要望もあるため、補助席を利用した運行や、市バスを補完的に使用するなど、中型バス2台の購入を前提とした、社会情勢に左右されにくい安定した運用方法を検討してまいります。

また、水泳授業を実施する施設が増えるにつれて移動に必要であるバスの台数も増加するため、利用施設はできるだけ減らすことや、徒歩で向かうことができる施設を利用することなど、バスの利用台数を減らすことが求められます。

## 8 パターン別の総合評価

前項までの検討を踏まえ、メリットが多いと思われるものから◎○△×の４段階で整理・評価しました。

図表 8-1

評価項目	パターン				
	1	2	3	4	5
1. 授業実施可能時期	×	△	○	◎	◎
2. 安定した回数の確保	×	×	○	◎	◎
3. 良好な授業環境の確保					
環境の快適性	×	△	○	◎	◎
環境の平等性・統一性	◎	×	△	◎	◎
環境の継続性	○	×	○	◎	△
4. 児童・生徒の移動					
移動時間等の負担	◎	○	○	○	○
バスの確保	◎	○	○	×	○
5. 教員負担の軽減					
授業スケジュール調整	◎	○	△	○	△
施設の維持・管理	×	△	◎	△	◎
指導補助・見守り人員	×	△	○	◎	◎
児童・生徒の引率	◎	○	△	△	△
6. 民間活力の活用可能性	×	△	○	△	○
7. コスト（総額）	×	◎	△	×	○
	78.2 億	57.4 億	74.9 億	84.2 億	69.2 億
8. 総合評価	×	×	○	△	◎

それぞれの実施パターンにおいてメリットやデメリットはあるものの、パターン3、パターン5においては大きなデメリットがないことが分かります。特にパターン5では、全校が屋内温水プールを利用するため授業環境の平等性が高く、天候によらない安定した授業が実施できます。また、コスト削減効果は、パターン1と比較すると40年間で9.0億円の削減が見込めます。さらに、インストラクターによる指導補助も見込めるため、生徒児童の見守り人員増加が期待できます。

なお、今後の児童・生徒数の動向を鑑みると民間施設の利用が困難な場合においては、使用期間や授業回数を調整することで、集約施設の利用が可能です。

以上のことから総合的に判断すると、パターン5が校内の屋外プールで実施する水泳授業の諸問題を改善する効果が最も高い案であると考えます。



## 9 建設場所について

### (1) 建設エリアおよび候補地について

公有地であり、かつ、将来的に集約施設を利用する可能性がある小中学校から移動時間に偏りが出ないように建設エリアを選定すると、守山市運動公園周辺エリアが適していることがわかりました(図9-1)。次に、このエリア内で集約施設の建設に必要な敷地面積(約2,500㎡)とバス乗降スペースが確保できる場所を検討した結果、図9-2に示した2敷地が候補地として考えられます。

図9-1

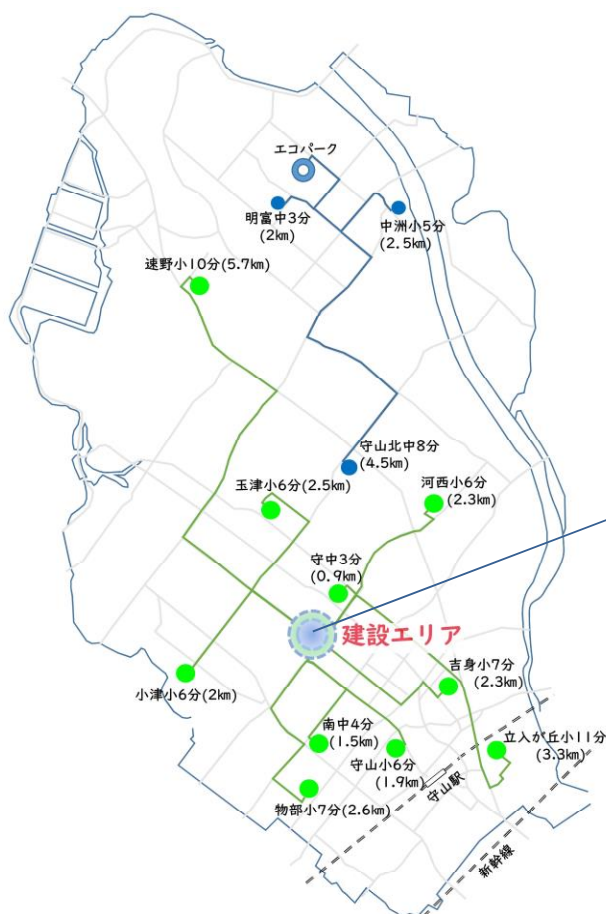
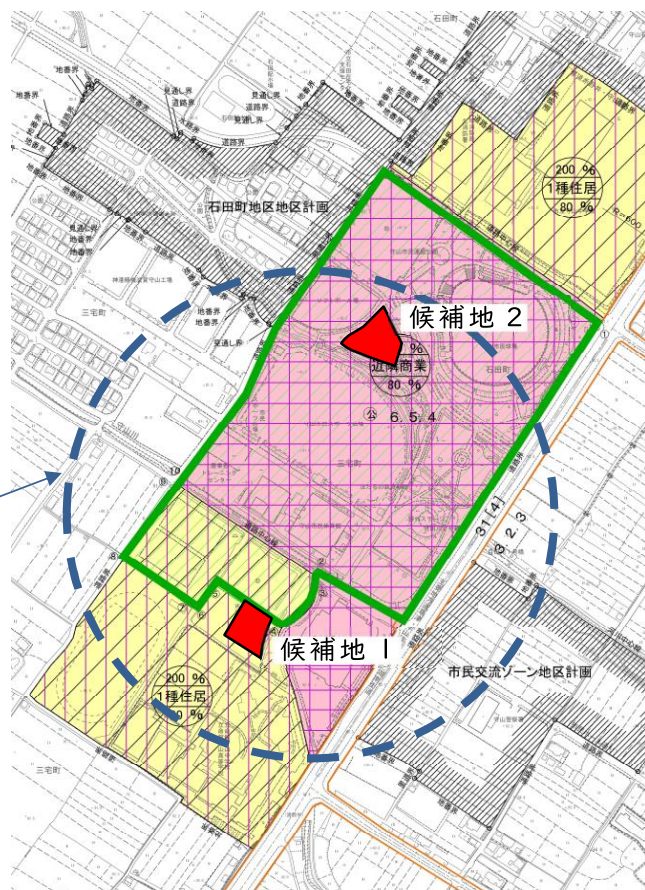


図9-2



### (2) 各候補地の詳細

#### ア 候補地1 (すみれ保育園横)

土地開発公社の所有地であり、約2500㎡の未利用地です。建設の際には、土地の買戻しを行う必要があります。また、第1種公共公益施設特別用途地区に該当するため、学校施設としてのプールであっても単独の水泳場の建築が規制されていることや、公園を挟む接道のない敷地であるため、都市計画法、建築基準法への適合の検討が必要です。

#### イ 候補地2 (守山市民運動公園内の交通園)

整備された当時は、交通安全教室に利用されていましたが、現在では自転車の練習や交通安全に親しむ広場として使用されています。また、守山市民運動公園内であるため、公園施設である市民プールとして建設することが求められます。

### (3) 建設場所について

前項までの検討から、学校施設としてのプールを建設するため、建設場所は候補地 1・2 の両候補地で、法適合等様々な観点から検討を進めます。なお、候補地 1 では学校施設環境改善交付金(文部科学省)を活用する予定であるため、授業を実施していない時間にあたっては、支障のない範囲で一般開放することが求められます。

## 10 事業手法の決定

### (1) 事業者ヒアリングの実施

想定される事業手法について、近隣自治体の屋内温水プール管理運営事業者および設計・施工関連事業者にヒアリングを行った結果は次のとおりです。

図表 10-1

官民連携 手法	実施主体					事業者ヒアリング内容	他市事例	
	資金	設計	施工	管理	運営			
従来方式	市		指定 管理者			建設関連コストが急騰している状況を踏まえれば、競争原理を働かせるため、分離発注するメリットがある。設計に管理運営の意見が反映されないため、意匠重視の設計提案を受ける可能性がある。	・ 三重県 いなべ市  ・ 茨城県 神栖市	
DB方式 設計施工一括発注	市	民間		指定 管理者			建設関連コスト（特に設備関連）が急騰している状況を踏まえれば、屋内温水プールは設備のウエイトの高い施設であるため、事業費のコントロールが難しい。また、事業規模に照らして、施工業者が得られるメリットや必要な労力を考えると取り組みにくい。	
DBO方式 設計施工維持一括 発注	市	民間						
PFI方式 民間資金で設計～ 管理・運営	民間		指定 管理者			水泳授業・部活動受入れのために相当枠が埋まり、市民利用との同時利用が困難。月額利用料金徴収による、会員制事業が成立せず指定管理料に依存せざるを得ないことから、運営事業者による創意工夫を引き出しにくい事業構造となり、民間ノウハウを活用するPFI事業の本質に馴染まない。	・ 滋賀県 草津市  ・ 福井県 越前市	
	民間							
民間投資 方式	民間					自らの資金で屋内温水プールを整備し、資金回収を図る事業方式は、本事業は水泳授業に特化する事業であり、収益を追求できる事業でない。また、投資負担が大きいことや新規投資が困難である。	・ 京都府 福知山市	

### (2) 事業方式の決定について

本施設は大部分を学校の授業や部活動で使用するため、民間の創意工夫の余地が小さく、事業費の規模も小さいため、PFI 事業方式や民間投資方式には馴染まないというヒアリング結果でした。また、DB 方式や DBO 方式についても、事業規模が小さいことや建設関連コストが急騰(特に設備関連費)していることから、事業費のコントロールが難しく、取り組みにくいという意見が多い結果でした。

以上より、小中学校のプール施設の老朽化の進行を考慮すると、集約施設は出来る限り早い供用開始が望まれることや、設計、工事、運営管理を段階的に発注する

ことで社会状況に対して柔軟に対応できることから、従来方式が優位であると考えます。なお、運営および施設管理のしやすい施設とするため、屋内温水プール運営事業者の意見を取り入れながら設計を実施していきます。

## 11 方針の決定

以上の検討を踏まえ、小中学校プール施設のあり方の方針は次のとおりとします。

### 方 針

- (1) 集約施設(屋内温水プール)の新設とエコパーク・民間施設を活用するパターン5で進め、授業で使用しない時間は市民開放を行います。
- (2) バス移動は中型バス2台の購入を前提とした運用方法を検討します。
- (3) 建設場所は候補地1・2の両候補地で、法適合等様々な観点から検討を進めます。
- (4) 事業方式については従来方式を採用します。

## 12 予定事業スケジュール（案）

従来方式において想定される全体スケジュールは次のとおりです。

図表 12-1

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
設計業務 ※基本・実施						
工事						
指定管理						
集約施設への 授業移行				★3校移行 供用開始	+3校移行 (計6校)	+2校移行 (計8校)
民間・ エコパーク	吉身小・守山北中は継続利用			+2校移行		+1校移行

## 13 今後の予定

- 令和6年12月 文教福祉常任委員会協議会(方針の決定)  
 令和7年3月 文教福祉常任委員会協議会(建設場所の決定)  
 令和7年4月 設計者選定プロポーザル公告

## 14 今後の学校プール施設について

- (1) 学校プール貯水の二次利用(消防・災害用)について

本市の小中学校プール施設は、敷地や建物規模により必要となる消防水利の指定や消防用水の設置が必要な建物に該当していないため、原則解体が可能です。関係課や関係機関と協議を行いながら今後の方針について検討を進めてまいります。

- (2) プール跡地活用について

プールの跡地については学校や庁内関係課と協議し、学校運営に最適なあり方を検討いたします。